

中国人留学生を対象としたeラーニングを活用した 日本語教育に関する学習評価

及川浩和^{*1}, 清水恵美^{*2}, 加藤直樹^{*3}

〈概要〉中国人留学生を対象に e ラーニングを活用して日本語文法を学習した学習評価について報告する。授業実践の結果、誤用の化石化が顕著に現れた。また、授業アンケートの結果、受講者には e ラーニングを活用した日本語学習は概ね肯定的に受け止められた。

〈キーワード〉中国人留学生, 日本語教育, e ラーニング

1. はじめに

本学では 2005 年度秋学期より留学生を対象として日本語教育を行う留学生別科が設立され、教育カリキュラムの中で学習の定着を図るために e ラーニングを活用した日本語教育が行われている。本稿は中国人留学生を対象に e ラーニングを活用して日本語文法を学習した学習評価について報告する。

2. 研究の方法

e ラーニングには、名古屋大学留学生センターが開発した Web 教材「日本語文法オンライン学習ソフト」^[1]を使用し、Lesson1 から Lesson20 までを 2009 年 4 月から 7 月にかけて、2009 年 4 月に入学した日本語初心者の中国人留学生 18 名を対象に授業実践した。学習評価は学習者毎に進度が異なるため学習範囲を Lesson6 から Lesson10 までに限定し、学習前に実施した確認試験の結果、正答率が 50% 以下の問題について e ラーニングを活用して学習した後の結果と比較した(問題数 102 問、被験者 18 名)。また、授業に対する学生の評価として授業アンケートの結果をまとめた。

3. 学習内容

e ラーニングを活用した日本語文法の学習レベルは、日本語能力試験の 3 級程度の内容で、他の日本語科目の授業においても同様な

内容で先行して学習されている。

4. 結果

(1) 確認試験の結果

図 1 は学習前後に実施した確認試験の正答、誤答、無解答の結果(平均値)をグラフ化したものである。学習後には誤答と無解答が減少し学習が定着している様子がうかがえる。

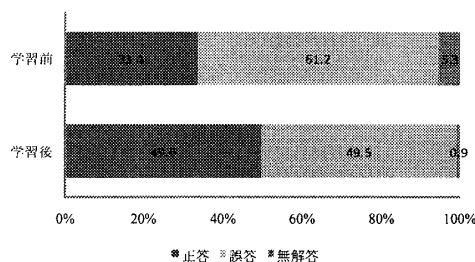


図 1 確認試験の結果

(2) 誤用分析

表 1 は学習前後の学習状況の変化をまとめたものである。○印は正答を、△印は誤答を、×印は無解答を、▲は学習前後で誤用が変化しない状態(第二言語習得研究で言われている誤用の化石化^[2])を表している。学習状況の「混乱」とは、学習前には習得されていたが学習後になって誤答あるいは無解答になった状態を示す。また、図 2 は学習前後の学習状況の出現割合をグラフ化したものである。学習後に誤用の化石化が顕著に現れた。

*1 OIKAWA, Hirokazu : 中日本自動車短期大学

*2 SHIMIZU, Emi : 中日本自動車短期大学留学生別科

*3 KATO, Naoki : 岐阜大学メディア情報センター

表 1 学習状況の変化

学習状況	学習前	学習後	出現割合
獲得	△ ×	○ ○	24.3
既習得	○	○	25.3
未習得	△ △ ×	△ ×	29.0
化石化	×	×	13.2
混乱	△ ○	△ ×	8.1

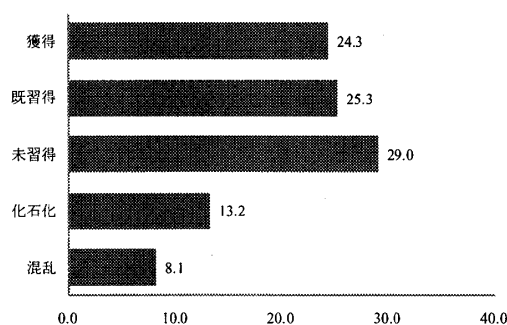


図 2 学習状況の出現割合

(3) 学習前得点と学習のび率

図 3 は学習前得点と学習のび率をグラフ化したものである。学習のび率(%)は下記の方法で算出した^[3]。学習の伸びは下位・中位層で高い。

$$= \frac{\text{ポストテスト得点} - \text{プリテスト得点}}{\text{満点} - \text{プリテスト得点}} \times 100$$

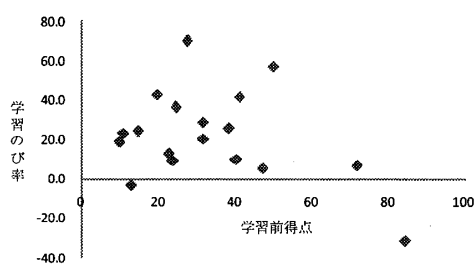


図 3 学習前得点と学習のび率

(4) 授業アンケート

表 2 は、5 件法(5:とても思う,4:思う,3:どちらともいえない,2:思わない,1:全く思わない)と記述の授業アンケートの結果をまとめたものである。受講者には e ラーニングを活用した日本語学習は概ね肯定的に受け止められた。

表 2 授業アンケートの結果

No.	質問項目	5件法平均 (n=18)	記述カテゴリー	度数
1	コンピュータを使った日本語文法の学習は楽しい	4.4	意欲向上・習得	9
			おもしろい・好き・遊び	5
			日本語入力習得	5
2	コンピュータを使った日本語文法の学習は役に立つ	4.2	記憶できる	8
			記憶できない	2
			復習になる	2
			入力しかできない	1
3	この授業を通して日本語文法の理解が深まった	4.0	理解が深まる	9
			理解が深まらない	1
4	自由記述		おもしろい	10
			役に立つ	2
			つまらない	1

5. 考察

e ラーニングを活用した日本語文法の学習は、授業アンケートの結果を見ると学習者に概ね肯定的に受け止められてはいるが、学習後に誤用の化石化が顕著に現れるため、化石化の頻度の高い問題に関しては繰り返し学習させる必要がある。また、学習後、学習者全員に獲得されなかった問題に「会話文中に適する助詞を入れる問題」がある。これは単独の文の問題では正答が得られても、日本語初心者には「会話の流れを読み取る能力」が不足していることを示唆している。日本語文法の理解をより深めるには、e ラーニングを活用して学習の定着を図る中で、誤用分析を通して得られた学習状況を、学習者や他の日本語科目の授業にフィードバックする必要がある。

謝辞 本研究では、名古屋大学留学生センターが開発した「日本語文法オンライン学習ソフト」を使用した。ここに感謝の意を記す。

参考・引用文献

- [1] 日本語文法オンライン学習ソフト：名古屋大学留学生センター
- [2] 迫田久美子(2002), 第二言語習得研究, アルク
- [3] CAI 用学習プログラムの評価,(財)機械振興協会(1977)
- [4] 石沢弘子他(2008), みんなの日本語初級 I 教え方の手引き, (株)スリーエーネットワーク
- [5] 石沢弘子他(2007), みんなの日本語初級 II 教え方の手引き, (株)スリーエーネットワーク